

タイの思い出

三十一回生 杉山 秀子

杉山さんは旧姓石井さんといい、ピアノの名手、且つ大連でステーキハウスを経営されている三十四回生石井庸三さんのお姉さんです。昭和四十四年に「日本航空」の客室乗務員になられて三十三年間、世界中を飛び回ってこられました。その貴重な経験を何度かにわたって披露させていただくことにしました。

アジアの風に吹かれて

私がタイにフライトで行ったのは、かれこれ三十五年前です。もうずいぶん昔の思い出になるので定かではない処も多々ありますが、少しずつ記憶を辿って見る事に致しましょう。

十三世紀のスコータイ王朝に始まり、アユタヤ、トンブリ、ラタナコーシンと四つの王朝の興亡が、繰り広げられてきたタイ、国民のほとんどが、仏教を信仰する敬虔な仏教国です。人々の微笑みのなかに豊かな

文化を守りながらさまざまな表情を見せています。のどかな田園風景の中、砂塵を上げながらバスでバンコク市内に向かってしていると花売りの少年が、窓ガラスを叩くのです。つぶらな瞳が花の香りと共に今でも印象に残っています。

お洒落なショップもレストランもなく、金色に輝く寺院の屋根が聳えるバンコクの街でした。私たちは東南アジア路線の他に南回りヨーロッパ路線があつて、バンコクは往復のフライト拠点として、最も多くのクルーが集まるステーションでした。

香港―バンコク―ボンベイ―カラチ―テヘラーン―ローマ―パリを二十日間の日程でフライトするのです。本当にいろいろな思い出があります・・・

それはまたのちほど紹介しますね。
バンコクの物憂い、ゆったりと流れる時間に身を任せてプールサイドでビールを飲みながら真つ青な空に浮かぶ白い雲を眺めていました。

お腹が空くと、Fried Riceをオーダーするのですが、ボーイがタイ語独特のアクセントで「OK、フライライ」と言うのですが、待てど暮らせど持ってきません。やつと忘れた頃に持つてくるのですが、文句を言おう

と思つてもニコニコ笑つているので、その笑顔に負けてしまつて何もいえない私でした。

タイ人の笑顔は世界一ですよ。

私達が宿泊していたホテルのロビーの片隅に小さな「タイシルク」のお店がありました。オーダーメイドで服を作ってくれるので、南回りの往きで頼んでいくと帰りには出来上がつていました。

その店のオーナー姉妹は、所謂「ぞうさんバッグ」の元祖とも言えますか？色とりどりのバッグも売っていました。コットンやサテンの可愛いバッグです。今では日本にも多く輸入されています。バンコクの長者番付に名を連ねているとか？

ところで話はちよつとそれますが、ヤモリの鳴き声を聞いたことがありますか？ホテルの部屋にはいっぱいヤモリがいました。夜中に「ケ、ケ、ケ、ケ……」という声で驚き目を覚ますと、壁に張り付いているので、家を守るので「やもり」と言うのだそうですが、身体に似つかわしくない鳴き声には吃驚させられます。私達がよく行つた「タイしゃぶしゃぶ」のレストランの壁にもヤモリがたくさんいましたよ。壁の隅にじつと蹲つているかと思うとすーっと移動していくので

す。害がないと分かっているのですが、食べ物の中に入つたらどうしようと考えると食事中も気がそぞろでした。

その名物で「蛙のから揚げ」がありました。姿を想像すると食べるのに勇気がいりますが、味は鳥のから揚げのようですヨ！タイ料理は辛くて、酸っぱくて、不思議な味がします。

最近では日本にもタイ料理のレストランが増えましたが、三十度以上もあるタイの暑さの中で食べるので、食べる味は何か違うように感じます。氷のように冷えているシンハビールとの相性も抜群ですよ。

さあ、アユタヤに出發です！！

今日（平成十八年六月十八日）は天皇、皇后両陛下もアユタヤを訪問なさいましたね。寺院や建造物は世界遺産になっています。

「アユタヤ王朝」

アユタヤはバンコクの北約八十キロに位置しています。十四世紀から十八世紀にかけてタイを支配していました。有名な山田長政は、十七世紀に王の信頼を受けて活躍し、当時の日本人町には八百人の日本人が存在し

り、合格者だけが専門訓練に移れます。落ちた人は、もう一度予備訓練です。無事に専門訓練が終わると、実際に乗務しながらの訓練が二ヶ月ありました。自宅が東京以外の同期は皆、アパートを借りるか親戚の家から通っていました。一度も一人暮らしをした事のない私は、それが羨ましくて試験の前日は同期のアパートに行つて勉強していました。羽田整備場のすぐ近くに家を借りている同期の所が皆のたまり場でした。彼女のアパートから訓練所は目と鼻の先です。夜遅くまでおしゃべりしながら起きていて、次の日はぎりぎりまで寝ていました。コンビニとかの無い時代ですので、食料をいっぱい買い込んで皆で作るのですが、大阪出身者の同期が作るお好み焼きが美味しくて、それを食べたくて泊まるのも一つの理由でした。

三十六年経つても同期と逢うとその頃の自分に戻つてしまいます。シアトルに住んでいる同期が帰ってくる時や、神戸にいる同期が東京に来る時に皆で逢うのが楽しみです。

専門訓練が終わって、いよいよ実機訓練が始まりました。OJTです(On The Jet Training)。国内線のOJTが終わり、明日は国際線の初フライト

のソウル便という時に「よど号」のハイジャックがありました。訓練所で国内線の反省会をしていた私達に、教官が慌てて教室に入ってきて

「今、351便がハイジャックされたそうです。詳しいことはまだ判っていませんが、皆さんも今後の動きに注目して下さい！」

さあ、それからが大変でした。飛行機は福岡で高齢者や子供を降ろして、ソウルに行ったのです。

私の初フライトはこうして始まりました。私の乗務する飛行機がソウルに到着すると、「よど号」が駐機場に停まっているのが見えました。中にいる乗務員は今、何をしているのかしら？行つて何か出来ることをしてあげたい！と痛切に感じました。

その後に続く一連の赤軍派ハイジャックも私の一便あとの飛行機だったりして、微妙にハイジャックとは関係しているのです。

タイの雨季は日本の雨季と異なります。バケツをひっくり返したようなスコールが一日に何度か来るのです。でも今年(平成十八年)は日本の各地で豪雨の様子を見てタイのようだな〜と思つてしまいます。

今日も雨の中、私の所属しているボランテニアグル

ープの「日本語教室」がありました。グルジア人のニユーフェイス・Lさんも元気に出席しています。

「日本語で挨拶したり、買い物をしたい！」そうです。先生は初心者を教えているRさんです。私は日本語で料理のレシピを読みたいと通っているペルー人のRさんの担当ですが、如何せん料理は全く苦手な私なので、食べることは大好きなのですが、でも今日は頑張つてRさんと一緒に(鯖の醤油味揚げ)に挑戦しました。鯖を三枚におろして、薄く削ぎ切りにし、生姜醤油に漬けて置いたのを、片栗粉を付けて揚げるのです。とても簡単なのに美味しそう。Rさんは、ご主人とお子さんに早速つくつてあげようと嬉しそうです。日本料理をたくさん作つて皆に喜んでもらいたいと、とても意欲的なRさんです。私も見習わなくてはと思っています。

追記

私は父の転勤で小学校三年生の時(昭和三十一年)に、千里山に参りました。それから十年間、高校三年生の時に又、父が東京に転勤になるまで千里山で過しました。千里山に住んでいた十年間は本当に楽しい

思い出がいっぱいです。

給水塔の辺りで「砂遊び」をしたり、日曜日には父に連れられて弟達と一緒に近所の池に「釣り」に行き、母が後からお弁当を持ってきて、昼食は家族全員で食べたことも懐かしく思い出されます。

【編集部】

まだまだ杉山秀子さんの海外の楽しい話は続きます。次号を楽しみにして下さい。杉山さんは先の文章のお仕舞いに書かれているように、ボランテニアで週に一回、地域に住む外国人に「日本語教室」を開催され、南米(アルゼンチン、ペルー、エクアドル)や、インド、バングラデシュ、中国の人達との交流を通じて、日本語を学ぶだけではなく、彼女達の悩みの相談や、幼稚園の手続きなどを手助けされ、色々お世話をされています。

私(萩原)もタイで通算 五年仕事をしていましたので、杉山さんのお話は楽しく、懐かしく編集させていただきます。私の友人はお酒とドリアンを一緒に食し、その晩に救急車を呼ぶ羽目に、お酒がドリアンの醗酵性を促進させるからと聞いています。